

## 礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

# ディーゴ ガイド



**2026.1.12-18**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。

1:2 アブラハムがイサクを生み、イサクがヤコブを生み、ヤコブがユダとその兄弟たちを生み、

1:3 ユダがタマルによってペレツとゼラフを生み、ペレツがヘツロンを生み、ヘツロンがアラムを生み、

1:4 アラムがアミナダブを生み、アミナダブがナフションを生み、ナフションがサルマを生み、

1:5 サルマがラハブによってボアズを生み、ボアズがルツによってオベデを生み、オベデがエッサイを生み、

1:6 エッサイがダビデ王を生んだ。ダビデがウリヤの妻によってソロモンを生み、

1:7 ソロモンがレハブアムを生み、レハブアムがアビヤを生み、アビヤがアサを生み、

1:8 アサがヨシヤファテを生み、ヨシヤファテがヨラムを生み、ヨラムがウジヤを生み、

1:9 ウジヤがヨタムを生み、ヨタムがアハズを生み、アハズがヒゼキヤを生み、

1:10 ヒゼキヤがマナセを生み、マナセがアモンを生み、アモンがヨシヤを生み、

1:11 バビロン捕囚のころ、ヨシヤがエコンヤとその兄弟たちを生んだ。

1:12 バビロン捕囚の後、エコンヤがシェアルティエルを生み、シェアルティエルがゼルバベルを生み、

1:13 ゼルバベルがアビウデを生み、アビウデがエルヤキムを生み、エルヤキムがアゾルを生み、

1:14 アゾルがツアドクを生み、ツアドクがア

キムを生み、アキムがエリウデを生み、

1:15 エリウデがエレアザルを生み、エレアザルがマタンを生み、マタンがヤコブを生み、

1:16 ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。

1:17 それで、アブラハムからダビデまでが全部で十四代、ダビデからバビロン捕囚までが十四代、バビロン捕囚からキリストまでが十四代となる。

イエス様の系図です。マリアの方ではなく、血のつながらないヨセフの系統が書かれています。ユダヤでは男性の血統が重んじられたので、このようにして、イエス様が王家の流れであることを証明しているのです。

またアブラハムから始まっているのも、アブラハムを始祖とするユダヤ人を意識してのことで、これらのことから、マタイによる福音書がユダヤ人を対象に書かれたことがわかります。

ただしその中には、ユダヤ人が疑問を持つような人々も記されています。タマルは異邦の遊女でしたし、ルツも異邦の女でした。ウリヤの妻とソロモンは正しい結婚ではありません。またソロモン以下の王たちも神様に反逆した者が多いのです。それでもその家系から救い主が誕生したということは、深い意味があります。神様は人間の失敗や罪を超えることのできるお方です。またイエス様がそのような罪の流れにあることによって、罪をご自身が引き受けてくださったことの証しともなりました。

イエス様は、アブラハムに与えられた預言、すなわち”子孫によって、地のすべての国々は祝福を受ける”という約束を満たし、王であることを表し、罪人と数えられることを実現して、お生まれになったのです。

このように神様は救いのために用意周到にご計画なさり実現されました。主の救いとご計画を、

改めて信じ、信頼しましょう。その確かなみわざにこれからも期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 13日 火曜

### マタイ



1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒ににならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

1:19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。」

1:21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。

1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、

1:25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

イエス様の誕生は、全能の神様が人類の救いのために計画なさった、すばらしくも不思議なみわざです。それは世の基が定まる前からのご計画であり、また旧約聖書に明記されていたものです。

またイエス様の誕生は、無限永遠絶対の神様が人となって、有限の世界に生まれ、人として弱い者となられたという、驚くべき出来事です。そして何より、人として全人類の罪を背負って刑罰を受けてくださったという、感謝に耐えない驚くべき恵の始まりでもあります。

りでもあります。

そのような救い主の誕生が、極めて少数の人々の信仰によっているということは、考えると不思議であり、また非情に不確実な感じもします。神様はご自分の御心になされた人を知っていて、そのような人に大切な働きを託されるのです。信仰こそが確実に基礎を置くべきものなのです。

神様が人となってお生まれになる…。その出産を担うのは、当然人間しかあり得ません。マリアはその大切な役目を全うしたのであり、ヨセフはその夫という役目を全うしました。同じように私たちもまた、神様が人の世界にみわざを行うという役目を担っています。伝道にしろ愛の行いにしろ、神様の使命を行うのは天使ではなく人間にしかできないことなのです。

マリアは命をかけて、使命を果たす決心をしました。またヨセフも人生をかけて、また名誉を捨ててその決断をしました。彼らに倣って、私たちも主の御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 14日 水曜

### マタイ



2:1 イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」

2:3 これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。

2:4 王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。

2:5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。

2:6 『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』」

2:7 そこでヘロデは博士たちをひそかに呼んで、彼らから、星が現れた時期について詳しく聞いた。

2:8 そして、「行って幼子について詳しく調べ、見つけたら知らせてもらいたい。私も行って拝むから」と言って、彼らをベツレヘムに送り出した。

2:9 博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。

2:10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

2:11 それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

2:12 彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。

東の博士たちは、ユダヤの預言なども知っていたかも知れません。また星の運行を研究し、当時としては相当な博学であったでしょう。その知識によって、救い主の誕生を知ったのですから大したものです。

しかし、その救い主の本当の意味は知りませんでしたから、初めは「ユダヤ人の王」と理解し、当然王宮に生まれたと思ったのです。結果的にヘロデ王を保身に走らせ、2歳以下の男の子が殺されることになってしまいました。

博士たちに罪はありませんが、神様の救いの真理を知っているかどうかで、人間の働きや努力の価値が決まるということがわかります。クリスチャンがこの世のすばらしい働きをするのは、良いことに違いありませんが、神様の救いと永遠の真理や価値観を理解して、そのためにしているかどうかで、本当の価値は決まるのだと知りましょう。

もしも博士たちのように的外れであったことに気づいたなら、「別の道」を歩みましょう。主から「…戻るな」という御心が示されたなら、素直に従いましょう。努力が無駄であったとうことはないのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 15日 木曜

### マタイ



2:13 彼らが帰って行くと、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を探し出して殺そうとしています。」

2:14 そこでヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに逃れ、

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と語られたことが成就するためであった。

2:16 ヘロデは、博士たちに欺かれたことが分かったと激しく怒った。そして人を遣わし、博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯の二歳以下の男の子をみな殺させた。

2:17 そのとき、預言者エレミヤを通して語られたことが成就した。

2:18 「ラマで声が聞こえる。むせび泣きと嘆きが。ラケルが泣いている。その子らのゆえに。慰めを拒んでいる。子らがもういないからだ。」

2:19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが夢で、エジプトにいるヨセフに現れて言った。

2:20 「立って幼子とその母を連れてイスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちを狙っていた者たちは死にました。」

2:21 そこで、ヨセフは立って幼子とその母を連れてイスラエルの地に入った。

2:22 しかし、アルケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くのを恐れた。さらに、夢で警告を受けた

ので、ガリラヤ地方に退いた。

2:23 そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られたことが成就するためであった。

神様が行おうとすることには、どんな権力もそれを妨げることはできません。イエス様は守られ、権力であったヘロデは死んで滅んでゆきました。私たちは主のご計画が成ることを確信して、従って行きましょう。

それにしてもイエス様が守られましたが、多くの子どもたちは殺されました。これはどのように考えたらいのでしょうか。

この「ラマで声が…泣いている。子らのゆえに…」という預言は、エレミヤ書にあります。エレミヤ書にはイスラエルの反逆とその結果としてのさばきが記されており、この預言もその流れの中にあります。しかしその後には希望も記されているのです。「ラマで声が聞こえる…」というような、愛する子どもを失う悲しみは、イスラエル全体のものであり、さらには人類全体の悲しみでもあるということです。

そしてその原因は何であるかということ、単にヘロデという圧制者だけでなく、人類が共通して持つ罪の問題なのです。全ての人の内にある罪が、自然をも呪われたものに変え、災害を引き起こします。罪が非人道的な圧制者を生み出し、それに従う者を起こすのです。そして人類は罪ゆえに神なき永遠の苦しみへと向かってゆくのです。悲しむ者は当時子を失った母親だけではなくありません。

これら人類の罪を自ら負って、十字架で身代わりの死を遂げてくださったのが、このときは命救われたイエス様なのです。そして愛する子が死んだという悲しみにくれたのは、父なる神ご自身であったのです。まさに神様が、このラケルの悲しみを含めて、人類の全ての悲しみを背負ってくださった…というべきでしょう。

主に感謝しつつ、そのような愛を実現された神様の全能を恐れて、信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 16日 金曜

### マタイ



3:1 そのころバプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べ伝えて、  
3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言った。  
3:3 この人は、預言者イザヤによって「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ』」と言われた人である。  
3:4 このヨハネはらくだの毛の衣をまとい、腰には革の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。  
3:5 そのころ、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川周辺のすべての地域から、人々がヨハネのもとにやって来て、  
3:6 自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。  
3:7 ヨハネは、大勢のパリサイ人やサドカイ人が、バプテスマを受けに来るのを見ると、彼らに言った。「まむしの子孫たち、だれが、迫り来る怒りを逃れるようにと教えたのか。  
3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。  
3:9 あなたがたは、『われわれの父はアブラハムだ』と心の中で思っはけません。言っておきますが、神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子らを起こすことができますのです。  
3:10 斧はすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木はすべて切り倒されて、火に投げ込まれます。

バプテスマのヨハネが授ける洗礼は、いわゆる水の洗いであって、主イエスとともに死にともに生きるという意味ではありません。まだ十字架以前で

あったからです。それでも多くの人が洗礼にあずかったのは、神様の前で御心になった歩みをしたを願ったからです。

私たちは十字架によって救われましたが、それにふさわしく神様の御心になった歩みをしているでしょうか。もしも救われているということに安住して、御心にかなう歩みへの意欲がなかったら、本当に悔い改めるべきです。また「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」ことを本気で考えるべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 17日 土曜

### マタイ



3:11 私はあなたがたに、悔い改めのバプテスマを水で授けていますが、私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格ありません。その方は聖霊と火であなただにバプテスマを授けられます。

3:12 また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめられます。麦を集めて倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

3:13 そのころ、イエスはガリラヤからヨルダン川のヨハネのもとに来られた。彼からバプテスマを受けるためであった。

3:14 しかし、ヨハネはそうさせまいとして言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受ける必要があるのに、あなたが私のところにおいでになったのですか。」

3:15 しかし、イエスは答えられた。「今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。」そこでヨハネは言われたとおりにした。

3:16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。

3:17 そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

「聖霊と火」とは、聖霊による信仰の救いと、火のように汚れを焼き尽くすきよめを意味すると思われます。すなわち新生と聖化であり、救いと行いとも解釈できます。

救いは信仰によります。すなわち行いによらないのです。が、その後のクリスチャンの生き方には行いはとても重要です。それは罪に支配された自己中心を焼き払うようにして処分することによって、きよい動機とその行動が実現するということです。

主への感謝と愛に動機付けられ、また聖霊の力によって良い行いができるのです。良い行いをしたいと思わない人にとっては、「殻を消えない火で焼きつかれます。」ということばが有効になるでしょう。

イエス様は罪のないお方なのに、悔い改めまでも「正しいこと」として、模範を示されました。それはイエス様が人類の罪を背負うためです。罪の悔い改めは恥ずかしいことではなく、「正しいこと」です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 18日 日曜

### マタイ



4:1 それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。  
4:2 そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた。  
4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」  
4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことで生きる』と書いてある。」  
4:5 すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、  
4:6 こう言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。『神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」  
4:7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」  
4:8 悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、  
4:9 こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」  
4:10 そこでイエスは言われた。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」  
4:11 すると悪魔はイエスを離れた。そして、見よ、御使いたちが近づいて来てイエスに仕えた。

与えられた試練、すなわちテストです。石をパンに変えるということは、神としての力で自分の必要を満たすということですが、イエス様はご自分の必要のためには生きられませんでした。

神殿から下に身を投げるとは、当時信じられていたセンセーショナルな登場の仕方をするということで、名声を意味します。イエス様はご自分の名声を全く求めませんでした。

世の全ての富は文字どおりで、神の力を持ってすればイエス様は地上で全ての富を手に入れることなどたやすいのですが、それをされませんでした。

私たちは以上のものを手に入れたいと願うのですが、イエス様のように自分が生きる目的は何かを先ず考える必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

イエス様が地上に來られた目的を生きるために、

